回　覧

おくたま農産だより

Vol.27
2025.7.10

＜発行人＞
農事組合法人　おくたま農産
責任者　代表理事組合長　小野寺勝義
連絡先　０１９１－５６－２３０１
E-mail　okutama-nousan@tmt.ne.jp

ご　挨　拶

農)おくたま農産
代表理事組合長　小　野　寺　勝　義

梅雨が明けるといよいよ夏本番となります。周りの田んぼは緑一色となりあと一か月で穂が出ます。大豆の種まきも終わり作業が一段落しました。復田圃場は水を溜める苦労をして、転作一年目の圃場は砕土に苦労し。分かっていたことではありますがやっぱり大変でした。作業にあたって頂いた皆様には感謝です。

先月、JA主催の『農政懇談会』に出席してきました。政府はどう考えているか分りませんが言いたいこと、伝えたいこと地方の農家の思いの一部は話してきました(伝わったか分りませんが・・・)。私たちはこの先もこの地で生活をしていきます。その為にも今おくたま農産が取り組むべきことを考えながら運営して参ります。

本年のとうもろこし、生育順調。　間もなく出荷開始です!!

本年度は圃場を変更し、いつもとは違う苦労がありました。それでも好天に恵まれ順調に生育しました。
７月１５日頃には JA へ初出荷出来る見込みです。

※7月21日（月）には道の駅むろねにて「とうもろこし販売」を実施予定です。
※いつもの圃場での即売会『とうもろこしまつり』は7月下旬に実施する予定です。

※最初に定植した圃場の状況

※実もたくさん着き、出荷まであと2週間か？

※3回目の定植作業の圃場

※6回目の定植作業の圃場

※種苗メーカーの指導で本年度から『デナポン粒剤』によるアワノメイガ防除を実施。

ペットボトルに薬剤を入れ実の根本に散布
効果は上々でした。（写真はイメージです）

※ブームスプレーヤーによる
除草剤散布

※7/2手作業による
病害虫防除を実施

水稲（主食米・飼料用米）も順調に生育

水稲栽培も好天に恵まれ生育は順調に推移しています。
飼料用米圃場では7月１日前後から「中干し」を行っています。主食米はその１週間前から実施しています。

今年は好天に恵まれたものの移植栽培・直播栽培ともに「茎数」が少ない気がします。（通常20本前後になります。）
急激な高温もあり根が弱り、分けつが思うように進まなかったのではと推測する指導員もいます。水も不足だったし！

＊他地区でも同様に茎数が少なく収量減を心配していると聞きました。

※ヒメノモチ圃場（入山沢）：移植（田植え）

※ひとめぼれ圃場（金取沢）直播栽培

＊中干しに入って、ヒエ等残ってしまった雑草処理を実施しています。
＊全体的に葉色が淡いようです。暑さか？中干で根の活性化を期待！

※飼料用米（たわわっこ）：石ノ御前：直播栽培

👈ひとめ圃場

＊隣接する移植栽培（ひとめぼれ）の圃場と遜色ない生育となりました。

※中干しとは

・水稲栽培において、落水し田面を乾かすこと。
出穂前に土を乾かすことで、過剰分けつを抑制し、『根』の活力（水を求めて根が深く伸び、土壌中の酸素供給が良くなり根腐れを防ぐ）が促進される。

＊期間は一般的には１週間程度ですが「Ｊクレジット」に取り組んでおり１８日間を予定（状況によって変更の場合あり）

＊今年は茎数が少ないことから収量に影響しないことを祈ります。

ドローンによる直播（バラ播き）

圃場も順調（WCS：つきはやか栽培）

※WCS（つきさやか）圃場：坂下　ここは順調です。

ただし、アオミドロ（青カナ）大発生！　*収量減が心配！*

直播栽培の圃場で発芽不良または発芽後枯渇した圃場が散見されました。

※WCS 圃場でも被害散見

※飼料用米圃場でも発芽不良散見

●アオミドロ（通称：青カナ）とは

緑藻類に属する一種です。太陽光が豊富な環境を好み水面近くに集まり膜状に広がります。急激な温度上昇や水中が栄養過多の状況下で多発する傾向にあります。アオミドロが水面を覆うことで光が水中に届かず水温低下、水生生物が光合成できなくなります。
アオミドロの分解課程で水中の酸素が使われ酸素欠乏や水質低下などの稲の生育にも悪影響が生じます。

⇒アオミドロの発生により播種された籾が発芽した際にアオミドロに覆われ、酸素欠乏となり発芽不良・生育不良が多発したと思われます。

・一部圃場で薬剤散布や落水・水入替等を実施しましたがあまり効果がありませんでした。次年度対策に向け研究して参ります。

雨が少なかったことで「ため池」や「河川」「沢水」の水不足が深刻！　**水管理者の皆様にはご苦労をかけました。**

今年のような急激な気温上昇や高温下での高温対策として、水の入替（朝夕に水を入れ替えし水温を下げる）ことが有効と言われますが、雨が少なかったことで、水不足が深刻な課題となり、このような対策が出来なかった圃場が多くありました。特にため池や小さな河川：小川から水を供給する圃場では、一旦落水してしまうと雨が降らない限り水の補充ができない状況もあり思うような管理ができませんでした。

早くフレッシュな水をあげたいです！

女聖ため池

大野沢ため池　（ゴミ処理場下）

大野沢ため池（上流部のため池）

ため池、小さな河川の水量はいつもの年と比べ半分以下で、管理者からは「落水してしまうと後が怖い」との話をいただきました。*確かに！*

＊皆んなで一斉に「雨欲しい」と大きな声で話すと、異常な大雨が降ることたびたびあります。皆んな小声で言って！

大豆も生育順調　6月下旬から中耕作業開始

今年は台風が心配！

雨が少ないことから生育が心配されましたが、順調に生育しています。（雨が少なかったため雑草も遅れたようです。）例年大雨による湿害で発芽不良が散見されましたが、今年はほとんど無く順調です。現在、作業は中耕作業を行っており、今後は病害虫防除対策や雑草対策を行っていきます。

＊水田から畑に移行した圃場が多いことから、土が固まる（ゴロゴロの土）など管理者の皆さんにはご苦労をおかけしました。

※7/1現在、4～5葉期まで成長しました。

※6月下旬から中耕作業を開始

※きれいに管理された大豆圃場（あとは雑草対策重要）

水田⇒畑の圃場は、土がゴロゴロです。（左の写真のように）

●中耕作業とは「土寄せ」とも言う。畝間の土を耕し柔らかくほぐし、新鮮な空気や水分の透過性を良くすることで土壌微生物の活性が高まり肥料効果がアップ、根の発達にも効果があり収量アップも期待できます。

作業の合間を見ながら佐々木整備士がコンバインの整備を開始しています。

編集後記

今年は 6 月から再三にわたって真夏日になるなど異常気象とも言える日が続いています。「何年かに1度の異常気象」という表現も、おかしな天候がこう毎年のように起きることが当たり前の状態になりつつあり、「異常気象」という言葉自体が無くなってしまうのではと勝手に心配する昨今です。皆さん、暑さに負けないで！

PS　突然、事務所のメールが使えなくなり、下記の通り「メールアドレス」を変更しました。文句がある方は下記へ！

E-mail　okutama-nousan@tmt.ne.jp

本年度より「熱中症対策」をすることが義務化され
『超ロングひんやりシート』や飲物・塩飴等を準備！
（写真手前の白いシートを首に掛けるとひんやりします。）